KALMOR

カビの危険度分類基準および一覧

カビの危険度分類基準

クラス1	危険性はない。 または危険性はきわめて低い	ヒトに疾病を起こし、あるいは動物に獣医学的に重要な疾病を起こす可能性のないカビ。 または、非病原性ではあるが、極めて稀にヒト或いは動物への感染やカビ毒被害を起こす可能性があるカビ
クラス2	注意	ヒト或いは動物に弱い病原性を有し、抵抗力が低下した人に疾病を起こす可能性があり 重篤なカビ毒被害をおこす可能性があるカビ
クラス3	危険	ヒト或いは動物に病原性を有し、重篤な疾病を起こすカビ

環境に多いカビ、酵母の代表的な一部

属　　名	種　　名	カ ビ の 色	危険度	健　康　被　害
アスペルギルス （コウジカビ）	ウスツス	暗褐色	クラス 1	稀に肺、耳、皮膚などに感染。カビ毒
	オリゼー（米コウジカビ）	黄緑褐色	クラス 1	稀に職業性アレルギーの原因
	テレウス	黄褐色、褐色	クラス 1	耳真菌症の主要菌種。肺、皮膚、眼、関節の真菌症
	ニガー（クロコウジカビ）	黒色	クラス 1	耳真菌症。稀に肺、角膜、皮膚の真菌症。稀に職業性アレルギーの原因
	フミガーツス	青緑色、煤緑色	クラス 2	肺真菌症の主要原因菌。呼吸器アレルギー。角膜、皮膚、副鼻腔、皮膚の真菌症。カビ毒
	フラーヴス（黄コウジカビ）	黄緑色	クラス 2	副鼻腔、肺、耳、稀に皮膚の真菌症。一部の菌株は肝硬変。発癌カビ毒
	ベルジコロール	黄緑色、ピンク緑	クラス 1	感染は極く稀。発癌カビ毒
アルテルナリア （ススカビ）	アルテルナータ	黄褐色、黒褐色	クラス 1	稀に呼吸器アレルギー。皮膚感染
	テヌイシマ	黄褐色、黒褐色	クラス 1	稀に皮膚感染
クラドスポリウム	スファエロスペルムム	黒色	クラス 1	稀に角膜、皮膚等に感染
	クラドスポリオイデス	黒色	クラス 1	稀に角膜、皮膚等に感染
	ヘルバールム	黒色	クラス 1	稀に呼吸器アレルギー
トリコデルマ （ツチアオカビ）	コニンギ	白色→緑色	クラス 1	抵抗の弱い患者に極く稀に感染。カビ毒
	ビリデ	白色→青緑色	クラス 1	カビ毒
ペニシリウム （アオカビ）	イスランディクム	灰緑色、オレンジ緑	クラス 1	肝硬変。発癌カビ毒。非感染性。アレルゲンの可能性
	エックスパンスム	灰緑色、青緑色	クラス 1	カビ毒。極く稀に角膜に感染。アレルゲンの可能性
	シトリヌム	青緑色、灰オレンジ緑	クラス 1	カビ毒。極く稀に角膜、肺に感染。アレルゲンの可能性
	シトレオニグルム	灰緑色	クラス 1	カビ毒。非感染性
	フニクロースム	黄緑色	クラス 1	カビ毒。非感染性
	フレケンタンス	灰緑色	クラス 1	カビ毒。非感染性
ムコール （ケカビ）	ラセモースム	淡灰黄色	クラス 1	非病原性
	シルシネロイデス	淡灰黄色	クラス 1	稀に皮膚、肺に感染

※この危険度分類は日本医真菌学会が医真菌学会雑誌第 34 巻（1993 年）、240-229 ページに公表された試案をもとに、千葉大学名誉教授宮治誠、西村和子両氏の指導を受けて作成致しました。

取扱代理店

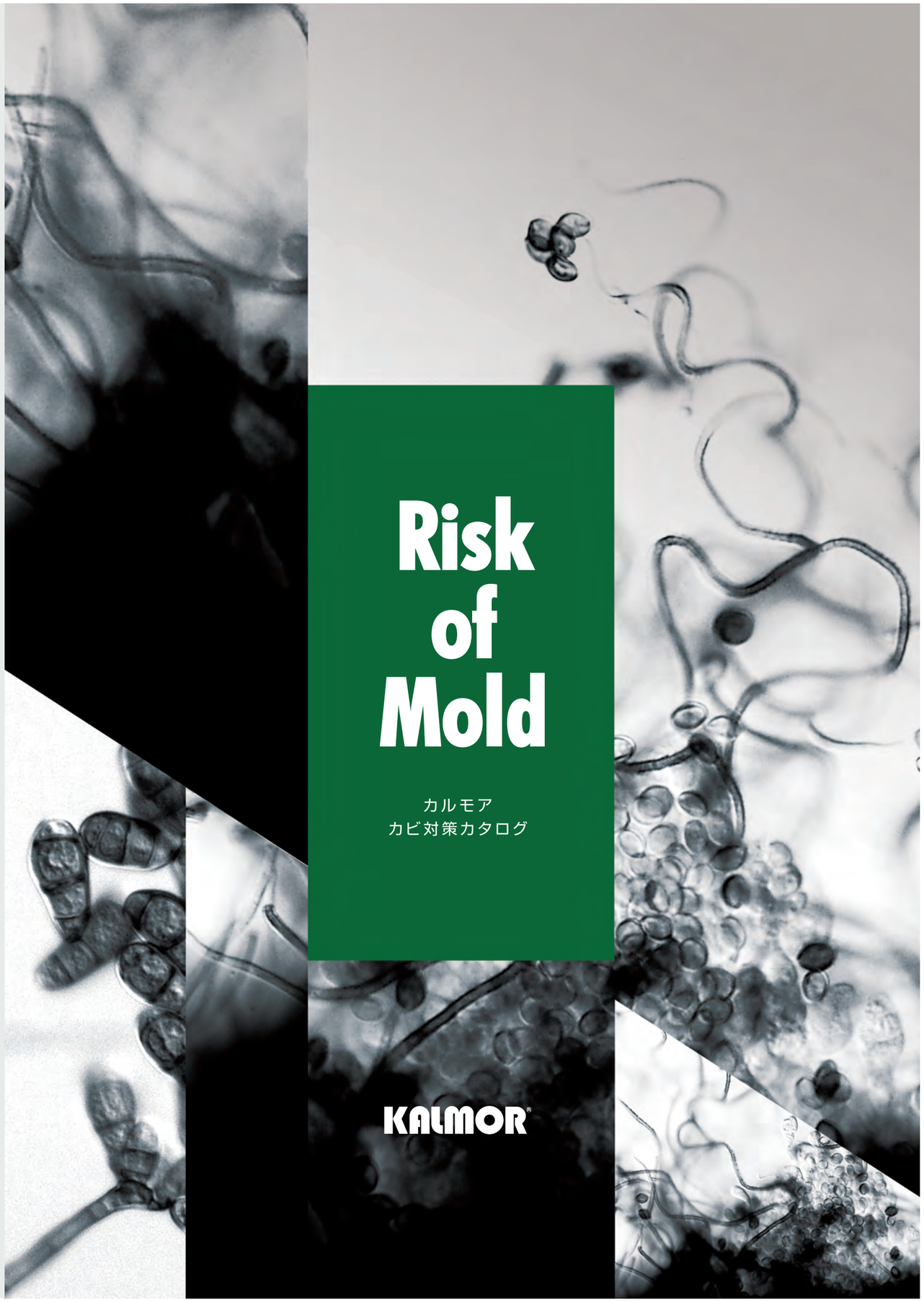
～カビの調査から対策まで～

KALMOR®

〒104-0033　東京都中央区2-9-5
TEL.03-5540-5851　FAX.03-5540-5852
www.karumoa.co.jp

※このカタログの内容は平成28年9月現在のものであり、予告なく変更することがありますのでご了承下さい。※類似広告・表記による誤認や、意味無き関連性を目的とした類似品にご注意ください。
※本資料に掲載されている各サービス、製品の仕様、価格については、予告なく変更させて頂く場合がありますのでご了承ください。

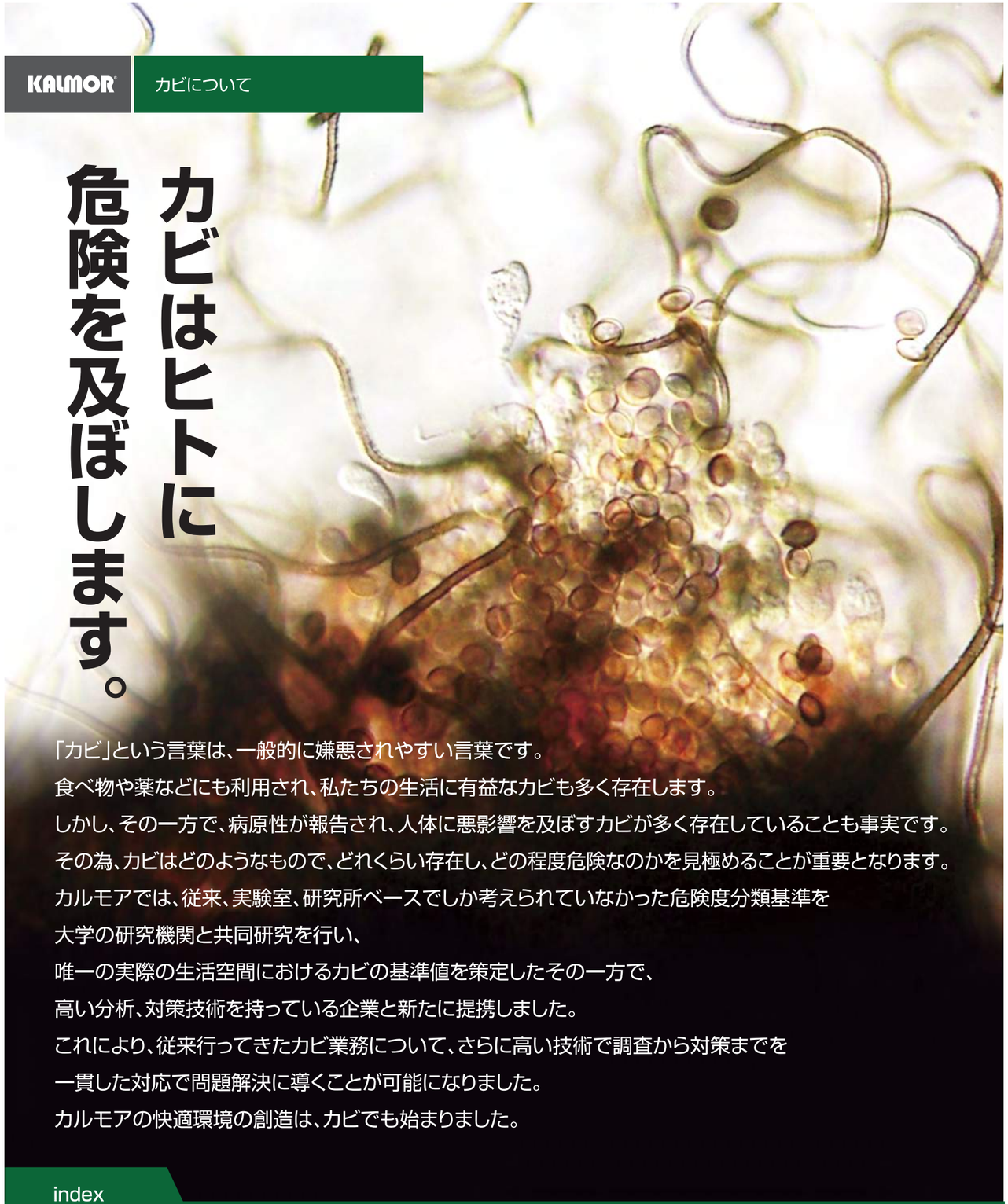
KM-003改訂日平成28年9月



Risk of Mold

カルモア
カビ対策カタログ

KALMOR®



カビはヒトに危険を及ぼします。

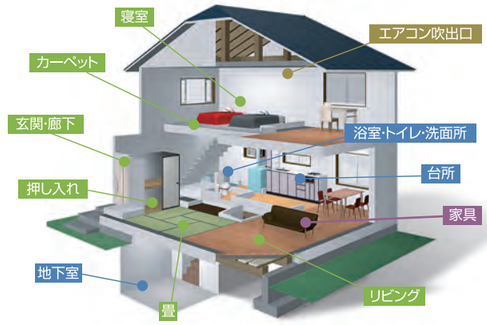
「カビ」という言葉は、一般的に嫌悪されやすい言葉です。
食べ物や薬などにも利用され、私たちの生活に有益なカビも多く存在します。
しかし、その一方で、病原性が報告され、人体に悪影響を及ぼすカビが多く存在していることも事実です。
その為、カビはどのようなもので、どれくらい存在し、どの程度危険なのかを見極めることが重要となります。
カルモアでは、従来、実験室、研究所ベースでしか考えられていなかった危険度分類基準を
大学の研究機関と共同研究を行い、
唯一の実際の生活空間におけるカビの基準値を策定したその一方で、
高い分析、対策技術を持っている企業と新たに提携しました。
これにより、従来行ってきたカビ業務について、さらに高い技術で調査から対策までを
一貫した対応で問題解決に導くことが可能になりました。
カルモアの快適環境の創造は、カビでも始まりました。

index

カビについて 02
カルモア真菌分析対策センター 04
・スクリーニング調査 05
・カビの分析 06
・除菌・防カビ作業 08
・リニューアル・清掃 09
プロパストップ(除菌・防カビ剤) 10
除菌・防カビ性能試験 11
カビの危険度分類基準および一覧 12

住宅は、カビの住処

一般的に、カビの多くは、温度25～30℃、相対湿度60～80%程度を好みます。
温暖多湿な我が国は、カビにとって適した環境と言えるでしょう。特に住宅では、
高気密高断熱化、暖房設備の向上により1年中カビが発生するようになりました。
また、最近では、短工期化によるコンクリートの乾き不足が原因で水分が蒸発し、
室内で湿度が急上昇。新築数ヶ月でもカビが発生するケースが見られます。
カビは、細菌類と異なり、黒、赤、白等の色素を産生するため、
見た目にも見苦しく、時には人間の健康にも多大な影響を及ぼします。



住宅で発生しやすいカビの種類

【発生箇所】
玄関、寝室、廊下、リビング、カーペット、畳、躯体、天井裏、倉庫

【カビの種類】
ユーロチウム、アスペルギルス、ケトミウム、スタキボトリス、ワレミア

【発生箇所】
台所、浴室、洗面所、トイレ、押し入れ、地下室

【カビの種類】
クラドスポリウム、フォーマ、アルテルナリア、ペニシリウム、オーレオバシディウム、トリコスポロン

【発生箇所】
ウール製品、綿製品、革製品

【カビの種類】
ユーロチウム、アスペルギルス、ケトミウム、スタキボトリス、ワレミア

【発生箇所】
エアコン吹出口

【カビの種類】
ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス

オフィスビルは、カビの温床

近年、オフィスビルには、オフィスの他に、ホテル、商業施設、飲食店、スポーツジム、最近では学校などの施設も混同して、入るようになってきています。
しかし、オフィスビルでカビの問題が発生することは、あまり知られていません。
なぜなら、オフィスビルや商業施設は見た目が綺麗な為、人目に付かない事、さらに、香料臭、調理臭や人が持ち込む様々な臭気でカビの臭気がマスキングされている事で殆どの人が気づくことなく過ごしています。しかし、そこに危険が潜んでいます。
近年、オフィスビルも高気密高断熱化がさらに進む一方で、室内の空気品質は、エネルギー節約の為に、ぎりぎりまで給気量や換気量は抑えられています。
この事は、カビにとって、栄養となる空気中の有機物量が増大する為、繁殖しやすい環境になっていることを意味します。

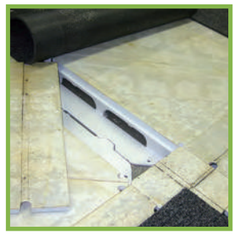
オフィスビルで発生しやすいカビの種類

【発生箇所】
外調機内・エアコン

【カビの種類】
ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス

【発生箇所】
トイレ、給湯室、水周り施設

【カビの種類】
クラドスポリウム、フォーマ、アルテルナリア、ペニシリウム、オーレオバシディウム、トリコスポロン



【発生箇所】
OAフロア下、化粧壁裏

【カビの種類】
ユーロチウム、アスペルギルス、ケトミウム、スタキボトリス、ペニシリウム

カルモア真菌分析
対策センター

カビ事業が、より高度に進化しました。

カルモア真菌分析対策センター

カビに関する問題は非常に多様化してきました。これには温暖化によるカビの繁殖環境の変化、建築技術の向上による高気密化、高断熱化が進み、室内空気の滞留が起きやすい環境となり、カビが着床しやすくなった事もあります。
さらに、最近では、観光立国を目指す日本において、多くの地域から外国人が来るようになり、その荷物や衣類に付着したカビの胞子等が持ち込まれ、元々日本に存在していなかった外来種のカビという新たな問題も発生するようになってきました。
一方で、国内においては、このようなカビに対する調査、分析、対策の技術が追いついていない為、高いレベルでの顧客満足を提供する事が難しくなってきておりました。
そこで、カルモアは従来行ってきた事業を見つめ直し、従来の技術、知見に加え、新たに高い分析、対策技術を持つ企業と提携する事で、調査、分析から対策までの一貫したご提案が出来る組織体制を構築し、この度、「カルモア真菌分析対策センター」を設立しました。
これにより、多様化したカビの問題に対して、今まで以上に専門性を高め、対策の幅を広げたご提案が可能になりました。
カルモア真菌対策センターホームページ　http://fungus-analyst.com

		従　来	今　後	特　徴
調　査		×	○	スクリーニング調査による繁殖原因の究明が可能
分　析	菌数測定	○	◎	2培養型による詳細な菌数表示が可能
	菌種同定	○	◎	高画質電子顕微鏡の導入による同定精度の向上
対　策	除菌・防カビ作業	○	○	耐水性のある防カビ剤を新たに開発
	薬剤	○	◎	薬剤改良による水周りの防カビ性能を大幅に向上
	クリーニング	×	○	カビのシミ、汚れの除去が可能

カビが繁殖する箇所を事前に究明し、発生源を特定します。

カビは様々な場所で繁殖します。
風呂場、洗面所等の水周りはもちろん、
住宅では床下や外壁、オフィスでは、エアコンや地下階部分などで多く繁殖します。
カビが繁殖するには必ず原因があります。
新たに開発された「スクリーニング調査」を行う事で、カビの生えやすい環境を事前に見極め、
発生源になり得る箇所を特定すれば、事前の対策が可能になります。

スクリーニング調査の流れ（問合せから受注まで）

1. お問合せ
2. 見積提出
3. 作業前現地調査
4. スクリーニング調査
5. 報告書提出

スクリーニング調査とは

調査項目：温度、湿度（一定期間の定点観測）、構造材料（建築資材）、現状の菌数測定・菌種同定

温湿度測定

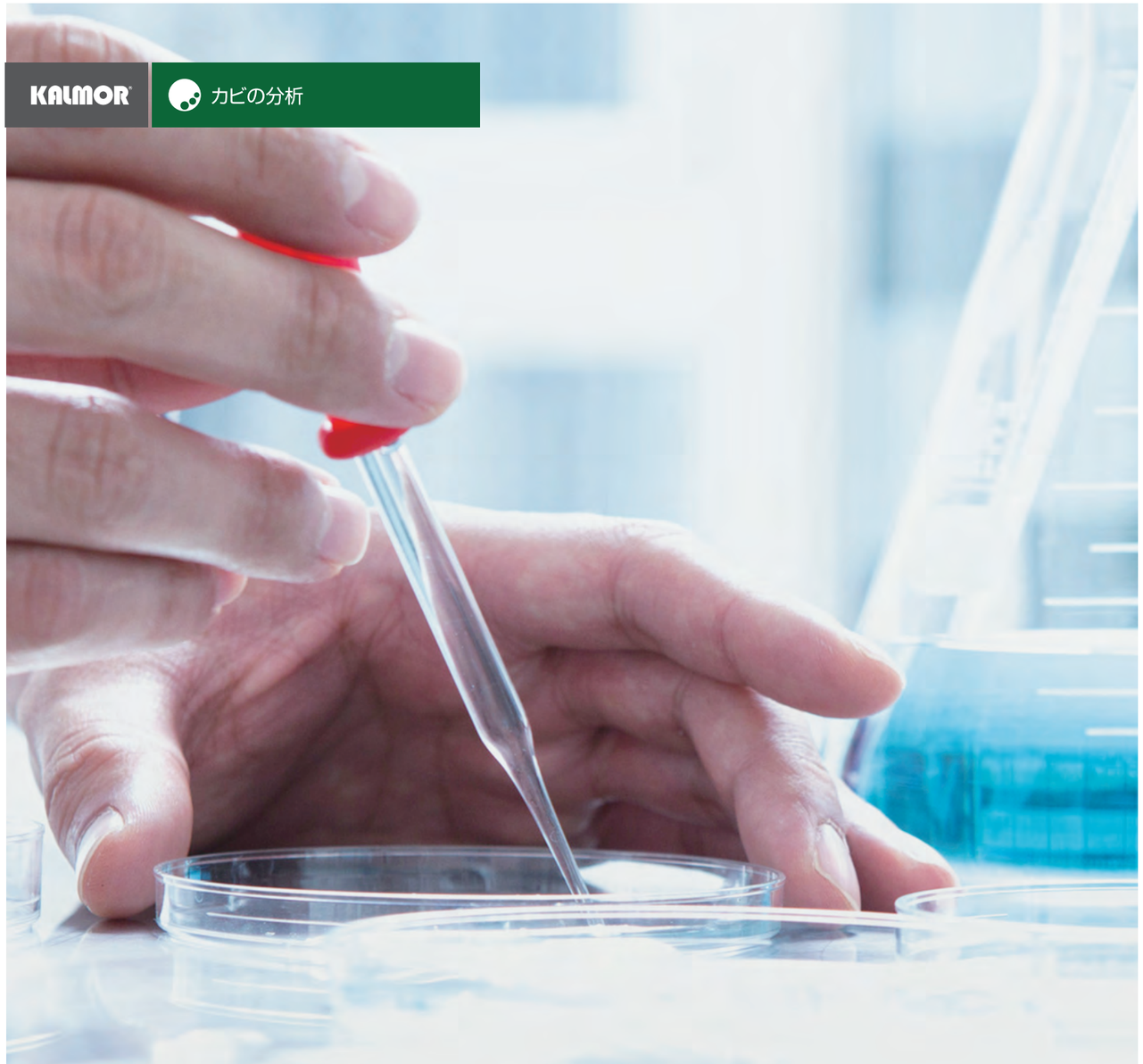
カビが繁殖する際、もっとも重要な要素に、温湿度があります。
全ての菌種が該当する訳ではありませんが、一般的には温度25℃～37℃、湿度80%以上がカビの繁殖に最適と言われております。
この温湿度が、カビの繁殖に及ぼす影響は非常に高く、カビの発生を抑制するには、温湿度の管理、コントロールが重要となります。
この調査では、対象となる空間、材料表面において、一定期間温湿度をモニターし、予想されるカビの生えやすい環境、結露の可能性を事前に究明することで、危険度を把握します。

構造検査

空間中に漂っているカビは、繁殖する為に、着床する事から始まります。
そこから、気中に漂う有機物やその建築資材に含まれる有機物を栄養素として、繁殖を行います。
着床出来る場所、繁殖する場所には多くの有機物が存在しています。
その有機物として、もっとも代表的なものとして、建築でも用いられる石膏ボード、壁紙、シーリング剤、コンクリート等の建築資材があります。
それら各資材の施工状況、材質確認、原材料確認等の調査を行い、カビが着床する可能性のある箇所を特定する事で、危険度を把握します。

菌種同定・菌数測定

現時点でカビが生えていない場合でも、すでに着床している可能性もあります。
また、その対象となる空間にどれだけのカビが浮遊しているかは、今後のカビ発生リスクの判断指標となります。
現状の菌種・菌数を把握することで、カビ発生のリスクを抑えたり、危険度を判断することで、対策への必要性を見極めることが可能になります。



KALMOR カビの分析

カルモアの最先端分析技術で
最適なカビ対策案をご提案いたします。

カビは、地球上のあらゆる場所に存在します。
カビ臭が感じられる空間があったら、その空間には、
1000個／m³以上のカビ胞子が浮遊していると考えて良いでしょう。
空間に浮遊するカビの菌数が増加すれば、人体への影響度も考慮しなくてはなりません。
カルモアでは先端の分析技術で得られた分析結果から
人体への影響度を評価すると共に、最適な対策案をご提案いたします。

菌種同定試験

カビの種類は、何と7万種類。
時期や条件など環境の違いにより発生するカビも変わります。また、人間にとって有害なカビもあれば何ら影響を及ぼさない無害のカビもあります。
カルモアでは、採取したカビ菌の培養分析を行い、検出された上位5菌種について、菌種名の報告を行います。
また、疫学上の知見から、そのカビ菌が人体や部材に対してどのような影響を与えるかについてもご報告致します。
また、お客様にて採取を行って頂くことも可能です。

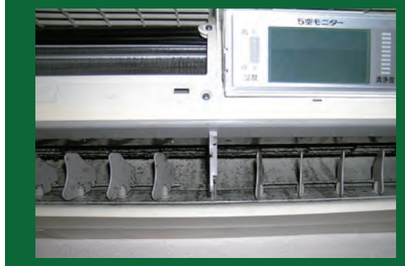
菌数測定試験

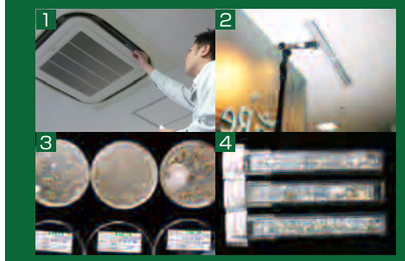
カビは、ある一定量を超えると人間に対して悪影響を及ぼします。
特に、小さなお子様や老人は抵抗力が弱い為、影響を受けやすいといえるでしょう。この場合、室内の空中浮遊菌の菌数を把握することが重要です。
近年、住宅やオフィスでカビが発生した場合、瑕疵担保責任や、
施設の管理責任を問われるケースが増えております。
菌数測定試験は、1m³当りの菌数及び検出された菌種名を導きだし、
健康被害に関しての影響度をご報告致します。

空気中の菌数測定評価　（1m³あたり）

評価	菌　数	判　　定	防カビ対策の必要性
S	10～100	清潔。全く問題なし	無し
A	100～1000	通常レベル。この数値以下に維持する事が望ましいレベル	対策をお薦め
B	1000～10000	注意。体調を崩した人や老人子供など体力の弱い人に影響が出る可能性がある	対策が必要
C	10000～	危険。健康な人でも重大な影響が出る可能性がある	早急な対策が必要

カビ調査・分析事例『空調機の吹出口に黒い斑点が大量発生!』





※写真はイメージであり、実際の現場とは異なります。

空調機の吹出口にひどい結露が発生。所々に黒い斑点が見られ、カビの疑いがもたれました。空調機の風で、胞子が撒き散らされている可能性も懸念されます。

1、拭き取り採取

カビであるかどうかを確かめる為、拭き取り採取を実施。採取した検体を真菌分析対策センターで培養し、菌種同定試験を行います。

2、空中浮遊菌採取

次にオフィスのカビの汚染度を調査する為、空調機吹出口付近にて、空中浮遊菌数を測定。空中浮遊菌採取には、エアーサンプラーを用います。

3、菌種同定試験結果

同定試験の結果、吹出口の黒い斑点からクラドスポリウムが検出されました。この菌種は、空調吹出口でよく見られる事が知られております。

4、菌数測定試験結果

菌数測定の結果、空中浮遊菌からもクラドスポリウムが検出。菌数が122個／m³と通常レベルであった為、お客様もひと安心。カビの発生原因である結露の対策及び、防カビ剤をおすすめして終了。

作業現場/オフィス　作業時間/2時間（報告書提出は、約2週間後）　調査内容/同定試験（空調吹出口）、菌数測定試験（オフィス空間）

カビの発生箇所を撃退。
カルモア精鋭チームが快適環境を取り戻します。

住宅やオフィス等、私たちが快適である温湿度条件はカビにとっても快適な生息条件です。
カビをそのまま放置すると知らぬ間に繁殖し、私たちの健康に害を及ぼす可能性があります。
カルモアでは、カビが発生した場所に合わせて防カビ剤「Propastopシリーズ」を使い分け、
快適な住環境を取り戻します。

除菌・防カビ施工の流れ

1. ヒアリング・現地調査
2. 見積提出
3. 除菌・防カビ作業
4. オゾン脱臭作業
5. 作業終了

ヒアリング・現地調査

電話によるヒアリング、事前現地調査を基に、現状の状態を確認し、最適な調査・分析のご提案を致します。

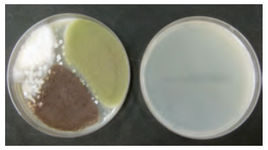
除菌・防カビ作業

除菌剤・防カビ剤を、噴霧器を用いて、まんべんなく発生箇所及び周辺部に噴霧し、送風機にて乾燥させます。
※200m²以上で、物品が多い場合を除いて、作業は1日で終了します。

オゾン脱臭作業

カビは表面から見えない箇所にも発生しています。
液体では届かない建築材料の裏側や隙間には、気体であるオゾンガスを用いて、除菌と脱臭を行います。
※オゾンには一定の条件を満たせば、カビに対する殺菌効果が科学的に認められております。

作業終了



効果確認として、作業前後のカビの培養試験を行います。
その結果と併せて作業報告書をご提出致します。
これにより、一連の作業と効果が視覚化出来る為、
そのままお客様の安心感につながります。

除菌・防カビ作業事例 『学校の漏水で発生したカビ対策』

ドレン配管の不具合により漏水が発生。室内の湿度が急上昇し、カビが大量発生。学校の備品がカビだらけに。

1、作業前測定
作業に当たり、作業前の測定を行います。人体への影響を考慮した菌数測定、
カビ臭としての臭気測定を行い、作業後との比較をしっかり検証します。

2、除菌・防カビ作業
続いて、除菌・防カビ作業。まずは備品・壁・天井等に大量に発生したカビをアルコールの入った薬剤で拭き取り、除菌します。
続いて、防カビ剤を噴霧し、今後のカビの発生を抑制。

3、オゾン薫蒸作業
素材表面以外で発生しているカビには除菌剤・防カビ剤は行き届きません。
その為、オゾンガスを薫蒸し、除菌とカビ臭の脱臭作業を行う事で、より効果的に除菌・防カビ・脱臭を行います。

4、お引き渡し
防カビ作業完了後、作業終了報告書をご提出。培養試験結果と共に、作業内容をご報告致します。

作業現場/オフィス　作業面積／ 210m²（報告書提出は、約2週間後）　作業日数/1日（除菌・防カビ作業のみの場合）
対策方法/〈乾燥作業〉漏水で湿った建材を乾燥、〈防カビ剤噴霧作業〉Propastop TYPE E（カビの除去、拭き取り）、
Propastop TYPE C（器材の防カビ、天井・壁の防カビ）、<オゾン脱臭>

残ってしまったカビのシミ、変色をリセット。
独自な技術と特殊な工法で、見た目も綺麗に戻します。

カビは、繁殖に伴って、範囲を拡げていきます。
さらに、菌糸を形成し、木材、繊維、シール材、コンクリート等の建築材料の中に入り込み、
根を張る状態を作ります。
除菌、防カビ作業により、カビ自体が死滅したとしても、
カビの死骸、その菌糸による根は残り、シミ、変色として残ってしまいます。
カルモアではこのような場合でも高い技術と特殊な薬剤・工法を用いて部分的にリニューアルを行うことで、
見た目も元通り綺麗にすることが可能です。

コンクリート階段

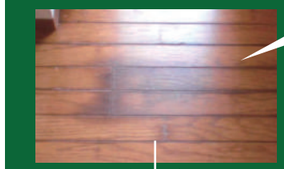
一年中風雨に晒されやすい外壁などで用いられるコンクリートなどは、
カビや汚れにより、変色します。
その汚れは非常に頑固であり、通常の清掃では落ちません。
独自の修復技術を持った清掃工程に除菌、
防カビという利点を加えた工法にて、新品のような状態に戻します。

マンションの廊下

マンションの廊下などは、場所、構造により、湿りやすくなり、
カビの温床となることがあり、それはそのままシミ、変色として、残ります。
また、清掃の際は人の出歩きが多く、立入制限が必要になりますが、
特殊な薬剤を用いた工法で乾燥を早めることにより、
短時間で効率的に綺麗にすることが出来ます。

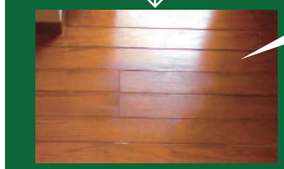
リニューアル・清掃の施工事例

『マンション床面のカビによるシミの復旧』



Before

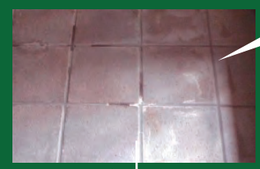
長年住んでいたマンションで床面にカビが生えており、住民撤去後に除菌を行ったが、シミが残っている状態となっていた。



After

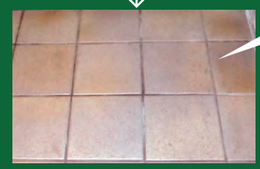
傷んだ基材を張り替えずに修復、再生を行い再活用する工法にて復旧する事で、工事範囲を狭め、工事費用を抑えることが可能。

『オフィス入口のタイルに発生したカビ・シミの除去』



Before

風雨が当たる場所の為、年々汚れとともにカビや、タイル内の石灰分が染み出てきて、固着し、取れなくなっていた。



After

特殊な薬剤と工法にて洗浄し、コーティング剤で塗膜することで、カビの発生、汚れの再付着を防止。

安全性と効果・持続性の両立を実現!
さらに進化した業務用除菌、消臭、防カビ剤。

高い安全性を有しながら、効果・持続性が強力な業務用除菌防カビ剤です。
徹底的にラボテストを繰り返し、性能を追求。
実際の現場での多数の防カビ施工実績がその高い持続効果を証明しています。
さらに、従来の防カビ剤の弱点でもある水で濡れてしまう環境でも、
長い持続効果を発揮出来る防カビ剤の開発に成功。
その効果は第3者機関でも認められました。
建築物内に繁殖するとされる62菌※全てに対し効果試験済み。
※：62菌種は試験した代表菌種を抗菌スペクトルの範囲に合わせた場合を意味しております。

Propastop TYPE E

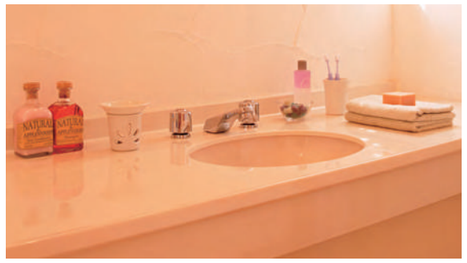
日頃の
除菌・消臭に

Propastop TYPE E

Propastop TYPE Eの消臭・除菌力の最大の特徴は、主成分である両性高分子化合物がミクロサイズ状消臭分子ミクロサイズ状消臭分子であるため、大気に触れる接触効率が数百倍に高くなっていることで、消臭・除菌力を大幅に向上させたのが特徴です。
<仕様>用途／消臭・抗菌剤、主成分／両性高分子化合物、エチルアルコール、販売形態／400mlスプレー・1Lボトル・20L箱、標準使用量／散布:10m²/1L、薬剤色／無色透明

Propastop TYPE NOKIF

屋内外の
防カビに



Propastop TYPE NOKIF

従来の防カビ剤にも含まれている有機窒素系化合物の配合割合を変えて、さらに高濃度化に成功した事で、カビに対して、非常に高い効果で防カビする事が可能です。さらにカビ繁殖の最適地である水周りにも使用出来るよう、高分子化合物を配合した事で、乾燥後はフィルムを形成する為、希釈倍数を変えることで、外壁やお風呂場などの水周りから、室内の壁や天井、家具などでも使用することが出来ます。
<仕様>用途／屋内外用防カビ剤、主成分／有機窒素系化合物、販売形態／30g、1kg、4Kg、標準使用量／散布:10m²/1L、薬剤色／白濁色

第3者機関による各薬剤の除菌、防カビ性能試験。

プロパストップシリーズの除菌・防カビ効果を証明する為、第3者機関にて、効果の確認試験を行いました。
また、従来の防カビ剤を改良した事により、防カビ性能が大幅に向上し、
水周りでも高い防カビ力を保持することが可能となりました。
その耐水性及び抗菌性を証明する為に、SIAA※マークに準拠した確認試験を行い、
高い耐水性能と防カビ効果が証明されました。 ※SIAA：抗菌製品技術協議会が定めた試験方法

試験概要

除菌性能試験

試験機関	三愛石油株式会社
試験方法	事前にカビを接種させた試験片にプロパストップ・タイプ Eを噴霧。噴霧後3時間室温に静置後、カビを摂取し、生菌数計測を実施。（JIS規格：JISZ2911 ／かび抵抗性試験方法）
試験対象	代表菌種4菌種（アスペルギルス、ペニシリウム、ペシロマイセス、トリコデルマ）

防カビ性能試験（耐水性試験）

試験機関	三愛石油株式会社
試験方法	事前に試験片を用意し、プロパストップ・タイプ NOKIFを噴霧、乾燥。乾燥後、流水試験を実施。（一社抗菌製品技術協議会SIAAマーク試験方法に準拠）流水試験後、代表菌種4菌種を接種し、培養。1週間毎にカビを摂取し、生菌数計測を実施。（JIS規格：JISZ2911 ／かび抵抗性試験方法）
試験対象	代表菌種4菌種（アスペルギルス、ペニシリウム、クラドスポリウム、トリコデルマ）

プロパストップ・タイプ E　除菌試験結果：単位：cfu ／ m³

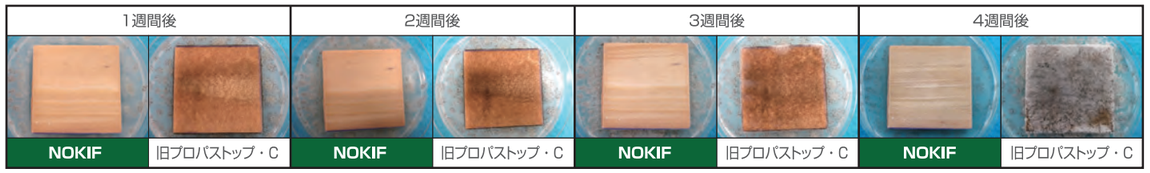
代表菌種4菌種	アスペルギルス	ペニシリウム	ペシロマイセス	トリコデルマ
噴霧3時間後	$2.4\times10^5\rightarrow5.0\times10^1$	$1.5\times10^5\rightarrow<10$	$3.4\times10^5\rightarrow<10$	$2.4\times10^5\rightarrow4.6\times10^2$
除菌性能	**99.9%**	**99.9%**	**99.9%**	**99.8%**

プロパストップ・タイプ NOKIF　薬剤耐水性及びカビ抵抗性試験結果（JIS Z 2911：2010 一般工業製品）

試　料	1週間後		2週間後		3週間後		4週間後	
	判定	カビ生育範囲(%)	判定	カビ生育範囲(%)	判定	カビ生育範囲(%)	判定	カビ生育範囲(%)
NOKIF	**0**	**0%**	**0**	**0%**	**0**	**0%**	**0**	**0%**
旧プロパストップ C	2	100%	2	100%	2	100%	2	100%

試験菌：Aspergillus niger, Penicillium citrinum, Chaetomium globosum, Cladosporium Cladosporioides
培地：無機塩寒天培地(JIS Z 2911：2010　一般工業製品)

プロパストップ・タイプ NOKIF　薬剤耐水性及びカビ抵抗性試験結果写真：耐水性試験実施品



判定基準

菌糸の発育	判　定
試料又は試験片の接種した部分に菌糸の発育が認められない。	0
試料又は試験片の接種した部分に認められる菌糸の発育部分の面積は、全面積の1/3を超えない。	1
試料又は試験片の接種した部分に認められる菌糸の発育部分の面積は、全面積の1/3を超える。	2